

沖縄県平和祈念資料館だより



「令和6年度 沖縄戦の語り継ぎ手養成事業」

戦後79年が経過し、戦争体験者の高齢化にともない、これまで第一線で平和講話を担ってこられた方々が減少し、体験談を直に聞けなくなる日が確実に近づいており、後継者の育成が喫緊の課題となっています。

本事業は、戦争を知らない世代が増える中、沖縄戦から得た教訓を次の世代に継承し、命と平和の尊さを伝える「語り継ぎ手」として活躍する人材を育成することを目的としております。沖縄本島と石垣市の2つの会場において、「琉球王国時代から戦前の沖縄」「沖縄本島及び離島地域における沖縄戦」「沖縄県の戦後復興」「八重山戦争マラリア」の講座を学びました。また、戦跡を巡るフィールドワークを2回実施しました。後半は「沖縄県平和祈念資料館友の会」を講師に平和講師としての実践的な実習を行い、最後にはこれまでの講座・実習の成果をグループごとに発表しました。

12月14日には、本島会場30名、石垣会場10名、合計40名に修了証書が授与されました。受講生の皆様が「沖縄のこころ」を次世代へつなぐ“語り継ぎ手”として活躍することを期待しています。

～ 参加者からの感想等 ～

- ・『私たちが体験者から直接話が聞ける最後の世代といわれている。縦の体験継承と同世代の若者や県外へと広める横の継承に取り組んでいきたい。』（20代 男性）
- ・『今回、養成講座を修了しましたが、まだまだ知らないことがたくさんあると実感しています。戦争の風化が叫ばれる中で、次世代へと語り継ぎ手として取り組めることを続けていきたい。』（30代 女性）

・ 沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本構想について ・

展示リニューアルに向けて、令和7年1月16日に沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館展示更新基本構想を策定しました。基本構想では、「展示更新における基本方針」や「展示更新の基本的な考え方」などを示しています。

今後、本構想を踏まえた基本計画を策定します。本構想やリニューアルの取組については沖縄県ホームページに掲載しています。

1. 沖縄県平和祈念資料館（本館）

（1）展示更新における基本方針

- ① 沖縄県平和祈念資料館の「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承した展示更新
- ② 誰一人取り残さないSDGsの理念に基づく多様な来館者に配慮した展示更新
- ③ 平和について学習する場の充実を目指した展示更新
- ④ 「平和の礎」との連携を意識した展示更新
- ⑤ 国内外の平和博物館及び関連施設との連携を目指した展示更新

（2）展示更新の基本的な考え方

- ① 常設展示室（2階）
 - ア 利用状況を踏まえた対応力の強化
 - イ 展示手法の見直し
 - ウ 老朽化した設備の整備
 - エ 開館以降の歴史的事実の追加
 - オ 新たな調査・研究内容の反映
 - カ 自分に引き寄せて考えることができる展示
- ② 子ども・プロセス展示室（1階）
 - ア 展示内容の見直し
 - イ 展示手法の見直し
 - ウ 動線・空間利用の見直し
 - エ 平和学習の場としての機能の充実
- ③ 情報ライブラリー（1階）
 - ア ライブラリー機能の充実
 - イ 証言映像の充実
 - ウ 学習の場としての機能の充実
 - エ 多様な来館者に配慮したサービスの向上

2. 八重山平和祈念館（分館）

（1）展示更新における基本方針

- ① 八重山平和祈念館の「『戦争マラリア』の実相を後世に正しく伝えるとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える『平和の発信拠点』の形成を目指す。」という基本理念に沿った展示更新
- ② 本館である沖縄県平和祈念資料館の理念、そこに示されている“沖縄のこころ”を踏まえた展示更新
- ③ 誰一人取り残さないSDGsの理念に基づく多様な来館者に配慮した展示更新

（2）展示更新の基本的な考え方

- ① 常設展示室（第一展示室）
 - ア 展示内容の追加、配置変更、整理
 - イ 展示物の修繕・更新等
 - ウ 証言資料を活用した展示の導入
 - エ 展示・情報発信手法の見直し

「平和への思い(ウムイ)」発信・交流・継承事業

期間 2024 (令和6) 年 11 月 23 日 (土) 14:00 ~ 16:30

場所 ともかぜ振興会館 多目的ホール

シンポジウム



第1部：プレゼンテーション

15:20 ~ 16:30
(70分)

～ ゆさぶれ!無関心 ～ モデレーター：新垣 誠氏 (沖縄キリスト教学院大学 教授)
戦争や紛争の“痛み”を自分事として、誰かの痛みを想像して共感する。(チムグリサ)

【 沖縄共同学習日程 】

- 11月18日 開会式 チームビルディング
- 11月19日 沖縄戦の講義 平和祈念資料館 平和の礎を視察
- 11月20日 首里城 第32軍 佐喜眞美術館・アーティストとの対談
- 11月21日 コザの街歩き 安全保障の講義 OB・OGとの交流会
- 11月22日 ディスカッション
- 11月23日 【シンポジウム】 沖縄で考えたこと

沖縄、広島、長崎、カンボジア、韓国、台湾、ベトナムの大学生が集い過去から「あしたのアジア」について考えます。



新聞紙タワー



首里城 守礼門



佐喜眞美術館



コザ街まわり



平和の礎



第32軍 司令部壕



アーティストとの座談会



成果報告会

・ 沖縄平和啓発プロモーション事業(沖縄戦学習動画制作・WEB公開業務) ・

期間 2024（令和6）年9月13日（金）～2025（令和7）年3月31日（月）

概要 当館では、これまで多くの沖縄戦体験者の証言映像を記録し、館内及び Web サイト等を通じて公開しています。1000 人余りの証言映像を保有する一方で、若い世代向けの平和学習教材が不足している課題がありました。学校現場等から沖縄戦の概要について学ぶ貸出資料のご要望を多くいただき、令和6年度は、児童生徒を対象とした沖縄戦学習動画「礎が紡ぐ、沖縄戦の記憶」制作及び WEB 公開事業に取り組み、小学校高学年対象（40分）と中高校生対象（50分）の発達段階に応じた2本の学習動画を制作しました。

「礎が紡ぐ、沖縄戦の記憶」

- ① 「琉球～沖縄」
- ② 「戦争に進む日本」
- ③ 「迫る沖縄戦」
- ④ 「沖縄戦」
- ⑤ 「住民被害」
- ⑥ 「沖縄戦から何を学ぶか」



「礎が紡ぐ、沖縄戦の記憶」では沖縄戦だけでなく、どのような過程を通して沖縄が戦争に巻き込まれていったかも学ぶことで、若い世代が沖縄戦の理解を深め、過去や現代の戦争についても「自分ゴト」として考えることをねらいとしています。学習動画は6つの章ごとにチャプターを付けており、利用者の用途に応じた場面から視聴できる仕様となっています。また、動画視聴前後に授業で活用できる学習シートや補足説明付き学習資料を作成しました。さらに、ゲストに県出身のアーティスト「Rude-a」とHYの仲宗根泉さんを起用し、若い世代に向けた平和へのメッセージも発信しています。監修者として沖縄大学客員教授の新城俊昭先生に担当していただきました。沖縄戦学習動画「礎が紡ぐ、沖縄戦の記憶」は貸出用DVDや当館HPから視聴することができます。2025年は戦後80年の節目を迎え、平和学習へのニーズはさらに高まることが予想されます。沖縄戦学習動画「礎が紡ぐ、沖縄戦の記憶」が設立理念である「沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝えること」の一助となることを祈念しています。



学習ノート



補足説明付き学習資料

15年戦争 - 満州事変から沖縄戦への流れ -	
1931	9月 日本が南満州鉄道の鐵道を爆破、その後、満洲全土を占領。（満洲事変）
1932	3月 中国の東北部に満洲国をつくる。満洲国の実権は日本が握っていた。
	5月 海軍の青年将校が菅野梧野を襲い、大蔵省官舎を襲撃。（五・一五事件）
1933	2月 国際連盟は満洲国の調査を行い、日本に軍縮を呼びかけるように伝える。
	3月 日本は引き揚げ勧告に反発して、国際連盟からの脱退。（国際的に孤立を深める）
1936	2月 海軍の青年将校がクーデターを企て、大臣らを殺害。（二・二六事件）
1937	7月 北京郊外の盧溝橋での日中両軍の衝突をきっかけに日中戦争が始まる。
1939	9月 ドイツのポーランド侵攻をきっかけに第二次世界大戦が始まる。
1940	9月 日本はドイツ、イタリアと軍事同盟を結ぶ。（日独伊三國同盟）
1941	7月 日本軍は石油などの資源を求め、ベトナムのホーチミン付近に軍進を進める。
	8月 アメリカが日本への石油輸出を禁止する。
	12月 日本軍はハワイの真珠湾を奇襲攻撃（アジア・太平洋戦争勃発）

戦争年表

離島・遠隔地講師派遣事業

期間 2024（令和6）年11月7日（木）

対象 恩納村立恩納小学校 6 年生

【平和講話の内容】 50 分～ 60 分

- なぜ、沖縄戦が起こったのか
- 沖縄戦はどのような戦争だったか
- 沖縄戦から学ぶ 命・平和について
- ◎実物資料を見たり、触れたりしよう

沖縄県平和祈念資料館では沖縄県内の離島・遠隔地にある学校を対象に平和講話の講師を派遣する「離島・遠隔地講師派遣事業」を行っています。

今年度も恩納村立恩納小学校に招いていただき、6年生を対象に平和講話を行いました。恩納小学校は1学期に恩納村の戦跡をめぐるフィールドワークを行ったり、戦時中にサイパンで生活をしていた方の話を聞いたりと充実した平和学習を行っています。1週間後に平和祈

念資料館に来館する子供たちにとっては事前学習にもなり、真剣に講師の話を聞き、問いかけに対しても積極的に答えてくれました。



平和や命について考えよう。



講話の感想を発表してくれました。



沖縄戦実物資料にも興味深々。

【児童の感想より】

今日の講話で私の知らない沖縄戦について知ることができました。特に考えが深まったのは沖縄戦の時、民間人はどうしていたかについての話です。法律の幅を超えて兵士を集めたり、私たちくらいの子供達も戦争に総動員されたりして怖くなりました。特に怖かったのはガマの中で母親が赤ちゃんの口をふさいでいる場面です。その後に講師の方が「戦争で1番怖いのは人間が人間でなくなること」といったのがすごく心に残りました。今日の講話を通して、平和のために何ができるか考え、行動したいです。また、次の学習で今回学んだことを役立てたいです。

【教師の感想より】

私たちは1年間を通して「平和」について学んでいます。児童の反応を見ていると、社会科ではまだ学習していない近代の内容についても興味を持って受け答えしているように見えました。他の職員も「資料館来館前に事前講話があるのはいいですね。」と感想を述べていました。また、講師の先生が恩納小学校のホームページを見て、これまでの平和学習の取り組みを踏まえた講話になっていたことでこれまでの学習につながり、さらに深まったように感じました。

八重山平和祈念館 活動報告

(1) 令和6年度 年度末企画展「八重山人（やいまびとう）が語る戦」

期間 2025（令和7）年2月22日（土）～3月23日（日）

本企画展では、これまで収集されてきた八重山の人々の証言を中心に展示を行いました。体験者自らが執筆した体験記録や、聞き取り等をとおして蓄積されてきた証言記録は、沖縄戦当時を追体験できる貴重な資料です。また、当時をよりイメージできるよう、体験・証言とともに写真やモノ資料などの関連資料も併せて展示し、戦争体験者から受け継いできた戦争の悲惨な記憶や平和への思いをしっかりと学び・向き合うことができる内容の企画展としました。

【観覧者】 403名（大人357名、小人46名） ※令和7年3月16日時点



第34回「児童・生徒のメッセージ」事業報告

沖縄県教育委員会との共催による「児童・生徒の平和メッセージ」事業は、今回で34回目を迎えました。沖縄県内の児童・生徒に「図画・作文・詩」の創作活動を通して「戦争」と「平和」について考えてもらうことにより、平和を尊ぶ心を育むとともに、応募作品の中から特に優秀な作品を選出し、メッセージ展を開催しています。

子どもたちのメッセージからは、戦争を知らない世代でありながらも、戦争と向き合い、純粋に自分自身の思いを読み手の心に訴えようとする気持ちが感じられました。また、未来に向かって主体的に、平和について考え続けていこうとする、次世代を担う者としての強い決意が伝わってきました。

第34回「児童・生徒の平和メッセージ」展は、沖縄県平和祈念資料館を皮切りに、県内5か所で開催し、多くの方が観覧されました。今後も本事業を通じて、子どもたちの平和を愛する心を育み、子どもたちの素直な平和への思いが詰まった「平和のメッセージ」を、多くの方々に伝える場となるよう取り組んでいきます。

各会場の様子



名護市立中央図書館



沖縄県立図書館



沖縄県平和祈念資料館



八重山平和祈念館



宮古島市未来創造センター

【観覧者感想より】

- * 子どもながらピュアな気持ちで感じられている心に涙ができました。そして、勇気ができました。これからは私も一緒に発言し表現していきます。一人一人が自分を信じた時、武力よりも何倍も強い力がうごく。絶対に平和はくる！ありがとうございました。(20代 自営業)
- * 改めて戦争のことを考えさせてくれる文章がたくさんあった。命の尊さや惨劇な出来事を次の世代に伝えていくためにも、私は戦争に目を背けず、当事者の話を聞くことや戦争のことを深く知る、また、自国と相手国との状況なども知る必要があると思いました。(10代 中学生)
- * 絵も詩も作文もすべてが心に響いた。より多くの人にメッセージが届き、戦争のない日々が当たり前であってほしいと思います。(40代 一般)
- * 子供達の平和への祈りが伝わりました。未来は希望にあふれていると思います。メッセージ展を見て、私もよかったです。ありがとうございました。(50代 一般)

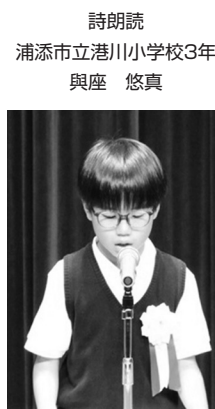
「児童・生徒の平和メッセージ」表彰式

2024(令和6)年8月24日(土)当館平和祈念ホールにおいて、第34回「児童・生徒の平和メッセージ」表彰式が行われました。

最優秀賞・優秀賞39名を代表して各部門からそれぞれ1名ずつ作品の朗読や発表を行いました。参加者の児童・生徒や保護者、学校関係者の皆さまから大きな拍手が送られ、会場が温かい雰囲気になりました。



作文朗読
沖縄県立開邦高等学校3年
宮城 心輝



詩朗読
浦添市立港川小学校3年
與座 悠真



図画発表
那覇市立天久小学校5年
知念 由依



「図画部門」受賞者



「作文部門」受賞者



「詩部門」受賞者

子ども・プロセス企画展

第4回子ども・プロセス企画展 「摩文仁が語る沖縄戦」

期間 2025（令和7）年2月13日（木）～5月18日（日）

場所 子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

当館が立地する糸満市摩文仁は、沖縄戦が始まった1945年3月下旬から6月初めまで、比較的被害の少ない地域でした。5月下旬、第32軍司令部が摩文仁の丘に移動してくると状況が一変し、摩文仁は重要な地点になりました。米軍が摩文仁の丘を占領すると、6月23日（22日の説あり）に牛島軍司令官は自決し、日本軍の組織的戦闘が終了しました。

戦後、摩文仁は沖縄戦終焉の地であることから、沖縄戦跡国定公園に指定され、様々な施設や慰霊塔が建てられました。現在では、観光の要所として県内外から多くの人びとが訪れます。しかし、これほど有名な場所でも、第32軍司令部最後の地であったこと以外は、あまり知られていません。

今回の企画展「摩文仁が語る沖縄戦」では、摩文仁地域の沖縄戦末期を中心に戦前から戦後までを展示しています。また、地域住民や避難してきた人びとの証言、戦争遺跡などを紹介することで、摩文仁地域の沖縄戦を掘り下げ、沖縄戦の実相について学ぶ機会とします。

【主な展示資料】

*体験者の証言 *沖縄戦の絵 *米軍記録写真



企画展の様子

大人のための平和学習（入門編）～1から学ぶ沖縄戦～

大人のための平和学習は、「沖縄戦の実相と歴史的教訓」を次世代へ継承するため、大人世代が次世代との架け橋となり、沖縄戦の学び直しや継承する意義を考える機会を設けることが重要だと考え、実施しています。

今年度も沖縄戦（入門編）を学びたい方を対象に、平和講話（沖縄戦の経緯と特徴、沖縄戦の記憶の継承）及び常設展示室見学を計10回実施しました。

今後も大人世代が「沖縄戦を1から学ぶ」ことを通して、家庭で子や孫と、または職場で同僚と一緒に沖縄戦や平和について話し合う契機とし、世代間における沖縄戦の実相と教訓の継承に繋がっていくことを期待しています。

〔参加者数〕 合計 135 名



平和講話の様子



実物資料を手にする受講者



展示室を見学する様子

カンボジア地雷対策センター(CMAC)博物館支援事業・本邦研修

期間 令和7年1月13日～2月8日

場所 沖縄県平和祈念資料館、沖縄県立博物館・美術館ほか

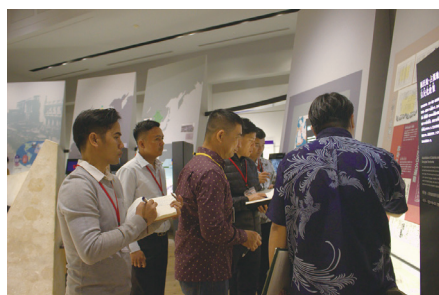
沖縄県は、カンボジア地雷対策センター（CMAC）の「地雷対策を通した平和と人間の安全保障の啓発・普及のための博物館づくり」において、令和5年度に引き続き今年度も事業を実施しております。

この事業一環として、第2回目となる本邦研修を1月13日～2月7日の日程で実施しました。本邦研修に参加中の CMAC の職員4名は平和を希求し未来へつなげる博物館づくりを学ぶため研修を実施しました。

研修は当資料館を中心に行われましたが、沖縄県立博物館・美術館などの類似館施設の視察も行い、研修員たちは、博物館の理念や調査研究、効果的でわかりやすい展示技術や演出方法、平和の大切さを心に訴える情報発信方法などを学び、その成果として研修員たちが作成した写真パネルなどを展示した写真企画展が開催されました。



CMAC からの研修生4人（1/13、開会式）



展示手法を学ぶ研修生たち（1/14、展示室内）



企画展で展示するパネルの作成（1/30）

写真企画展「写真企画展 カンボジア王国の内戦の近現代史とCMACの活動」

会 期 令和7年2月5日～3月31日 9時～17時

会 場 沖縄県平和祈念資料館企画展示室（1F、東側）

本展示は、カンボジアの内戦の歴史を経た同国民の相互信頼構築の歩み及び CMAC による安心安全な国土回復に係る活動の足跡を通して人間の愚かさや争いそのものの不条理さを学ぶことを目的としています。



写真企画展ポスター



研修生による展示案内（2/5）



写真企画展展示状況



研修生が編集した証言映像の展示

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.okinawa.jp>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
Email webmaster@peace-museum.okinawa.jp



日本平和博物館会議
ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE